

令和 2 年 5 月 8 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H02026

研究課題名(和文) 不完全な金融市場下での経済パフォーマンスと金融財政政策に関する理論・実証分析

研究課題名(英文) Theoretical and empirical analyses of economic performance and the effectiveness of monetary and fiscal policy under capital market imperfections

研究代表者

柴田 章久 (Shibata, Akihisa)

京都大学・経済研究所・教授

研究者番号：00216003

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 25,200,000円

研究成果の概要(和文)：金融市場には本質的に情報の非対称性等の問題が存在する。本プロジェクトではこのような金融市場の不完全性を考慮に入れた分析を行った。まず、金融市場の不完全性は、バブルの発生要因や経済の不安定化要因になり得ることを示した。また、このような状況下で望ましいマクロ経済政策についての分析を行った。さらに、事前に確率分布を知ることのできないようなショック(ナイト的不確実性)を導入し、不確実性が様々な主体の動学的行動に及ぼす影響について分析した。市場の不完全性を補う役割を果たすものとして、教育などの諸制度に着目し、制度のマクロ経済学的含意についても分析した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

為替レート等の資産価格の急変動は、経済活動に大きな影響を及ぼす。我々は、金融市場の不完全性が、経済に不安定性・非効率性をもたらす要因になり得ることを様々な形で明らかにした。また、経済の非効率性・不安定性を取り除くために有効な政策についても多くの示唆を得た。歴史上前例のない急速な高齢化の進展や突然のパンデミックの発生など、事前には確率分布を知ることのできないようなショックを我々は立て続けに経験している。ナイト的不確実性とはこのような状況を描写するものである。ナイト的不確実性を明示的に導入することにより、標準的なモデルでは説明できない国際分散投資の現状等について合理的な説明を与えることに成功した。

研究成果の概要(英文)：There are intrinsic information asymmetries in financial markets, which disturb the functioning of the markets. In this project, we took into account such capital market imperfections and analyzed many macroeconomic issues. First, we showed that the existence of capital market imperfections can be a source of bubbles and a destabilizing factor in the economy. We also provided analyses of effective macroeconomic policies under these circumstances. We also introduced shocks that do not allow us to know the probability distribution in advance (Knightian uncertainty), and analyzed how the existence of uncertainty affects the dynamic behavior of various agents. We focused on the role of institutions such as education and investigated macroeconomic implications of institutions.

研究分野：マクロ経済学

キーワード：金融市場の不完全性 不確実性 経済制度 金融・財政政策 景気循環 経済成長

1. 研究開始当初の背景

本研究では、金融市場の不完全性、ナイト的不確実性、社会的・制度的要因の役割の三つの側面に注目した分析を行う。以下では、この三側面から本研究の背景を説明する。

金融市場の不完全性

金融市場が円滑に機能している状況下では、経済を襲う様々なショックは柔軟に吸収され、経済の長期的パフォーマンスに深刻な影響を及ぼすことはない。しかしながら、現実的には金融市場の機能は制約されており、そのことが経済の不安定化や長期的な低迷をもたらすことが先行研究で明らかにされている。これは、金融市場では財市場に比べて本質的に情報の非対称性の問題が生じやすいことによる。このような状況下では、小さなショックが経済に対して極めて大きな変動をもたらすことを Kiyotaki and Moore(1997)は明らかにした。また、金融市場の不完全性の存在は経済発展を阻害する可能性のあることも Matsuyama (2007)らによって明らかにされている。さらに、Martin and Ventura (2012)らは、世代重複モデルの枠組み内で、金融市場の不完全性の存在がバブルの発生を促し、経済変動や経済成長に大きな影響を及ぼすことを明らかにした。このように、金融市場の不完全性がマクロ経済に大きな影響を及ぼすことは近年の研究においては広く認識されており、現在のマクロ経済学の最重要課題の一つとなっている。本プロジェクトでは、金融市場の不完全性の度合いおよびその影響を国際比較によって明らかにし、その結果と統合的な理論モデルを提示することを目指す。また、近年、金融市場の機能が不完全である場合には、望ましい経済政策のあり方も大きく変わることが広く認識されてきている。例えば、完全な金融市場の下では最適な資本税率はゼロであることが広く知られているが、不完全金融市場下においては、最適資本税率はゼロから乖離することが近年示されている。ただ、これらの研究は、政策手段が限定的であり、ある特定の経済環境を分析対象としたものであるため、より一般的な分析が必要である。そのため、金融政策をも考慮に入れた上で、不完全な金融市場下での最適な金融・財政政策について分析する。

ナイト的不確実性

これまで経験したことのない出来事を予想することは極めて困難である。例えば、サブプライム・ショックの予想しない広大な波及についても、複雑に入り組んだ金融取引が背景にあり、どのような波及効果をもつのかを事前に予想することは極めて困難であった。このような状況を把握するための概念として、リスクよりも広い概念であるナイト的不確実性を用いる。フランク・ナイトは確率分布がわかっている状況をリスク、分布自体が定かではない状況を不確実性として区別したが、現在、この不確実性の概念が理論的にモデル化され、広く経済分析に用いられるようになっている。本研究プロジェクトでは、金融市場の不完全性下での不確実性の存在が、貯蓄・資産保有行動や長期的な経済成長に対して及ぼす影響を、マクロ経済モデルを構築することによって明らかにする。

社会的・制度的要因の役割

市場の機能が制約されているときには、市場を補完するものとして慣習や法、社会に対する信頼といった要因が大きな役割を果たす。例えば、政府・官僚の質も社会の制度の質を規定する主要因の一つであり、政府や官僚の汚職の横行は劣悪な社会制度を意味する。このような分析は、ダグラス・ノース以来、多くの研究者が取り組んできており、近年ではアセモグルとロビンソンの『国家はなぜ衰退するのか』にまとめられているように、経済活動における社会的・制度的要因の重要性は多くの経済学者の共通認識となっている。本プロジェクトも、このような観点から、経済成長、景気循環、経済効率性、所得・資産分配の不平等性に対して、これらの社会・制度的要因が果たす役割を理論・実証の両面から明らかにする。

2. 研究の目的

企業や個人が、経済へのショックに対し、柔軟に対処するためには金融市場が円滑に機能していることが前提となるが、現実にはその機能は制約的であることが多い。本研究は、金融市場の不完全性に着目し、金融市場が現実にもどのように機能しているのかについて国際比較を行う。また、その結果と統合的なマクロモデルの構築を行い、不完全な金融市場下において有効な金融・財政政策について理論・数量分析を行う。また、これまでに世界経済が経験したことのない急速な高齢化や世界規模の金融危機に際しては、ナイト的不確実性の概念に基づいて理論モデルを構築し、不確実性が経済活動に及ぼす影響を明らかにする。不完全な金融市場下では、様々な経済活動において慣習・法といった社会的・制度的要因が重要性を持つため、これらの役割を理論・実証の両面から分析する。

3. 研究の方法

本プロジェクトでは、金融市場の不完全性をとりあげ、金融市場の発展度合いの決定要因、ナイト的不確実性の役割、制度の果たす役割の三つの側面から分析を行う。また、すべての側面について有効な政策の在り方を分析対象とするため、政策分析を加えて、以下の四つの班を構成する。各メンバーは複数の班に横断的に属し、常に密接に連携をとりながら分析を行う。代表者の柴田はすべての班に属し、研究を進めるとともに全体の統括も行う。

- (1) 金融市場班 國枝、岡田、中嶋、平口、柴田
- (2) 不確実性班 梶井、浅野、平口、高橋、柴田
- (3) 制度分析班 國枝、岡田、浅野、柴田
- (4) 政策分析班 梶井、中嶋、高橋、平口、柴田

4. 研究成果

本研究は、1. 金融市場分析、2. 不確実性に関する分析、3. 制度分析、4. 政策分析という四つの観点に基づいて進められた。以下、それぞれの成果について順に述べる。

[金融市場分析]

- ・金融市場の不完全性がどのようなメカニズムで資産価格バブルを発生させるのか、そして発生したバブルが景気循環や経済成長に対してどのような影響を及ぼすのかについて Ramsey 型のモデルの枠組みを用いて分析を行った。
- ・金融市場の不完全性に加えて、消費の外部性を導入した動学的一般均衡モデルを構築し、その動学的性質を分析した。
- ・金融市場の不完全性の存在下で、バブルの発生が失業および景気循環にどのような影響を及ぼすのかについて理論的・数量的に分析した。
- ・標準的な二部門成長モデルに金融市場の不完全性を導入し、均衡動学の性質がどのように変化するかを明らかにした。
- ・金融市場の発展や資産価格バブルの発生が経済の循環的変動を生じさせる可能性を持つことを示した。
- ・金融市場の不完全性を導入した世代重複モデルを構築し、カオス的変動が生じることを示した。
- ・情報の硬直性が経常収支変動に対して持つ含意に関する研究を行った。

[不確実性に関する分析]

- ・金融市場の不完全性に基づく景気循環において、ノイズの存在が果たす役割を明らかにした。
- ・将来の所得リスクが一定でも、そのリスク評価がより曖昧になる環境において、予備的な貯蓄が生じる条件を明らかにした。
- ・曖昧さの存在が投資家の資産選択問題および起業選択問題に与える効果についての理論的分析を行った。
- ・曖昧さの戦略効果を分析する理論的フレームワークを考察した。
- ・曖昧性が投資行動に与える効果は、投資関数が補完的か代替的かによって異なることを証明した。
- ・危険資産と曖昧資産の選択問題において、曖昧性の存在が曖昧資産への投資を減少させる条件を導出した。さらに、本モデルが国際金融論で著名なホームバイアスパズルに一つの解答を与えることを示した。
- ・生産性ショックに関する曖昧さが企業の投資活動に与える効果について、理論的分析を行った。
- ・進化的モデルを用いて、確率は低いが高成功時のリターンの高い証券の購入者はまれに巨額を得ることによってリスクは低い及安全な証券の購入者より長期間市場にとどまることが出来ることを示した。
- ・不確実性下において、動学的整合性・帰結主義を踏まえて、三種類の updating rule を、同じ方法論で公理化する研究を進展させた。
- ・動的競争市場モデルにおける、合理的期待および完全予見の基礎を調べる研究として、一時的均衡の効率性と期待・予見との関係を単純なモデルにおいて解明した。

[制度分析]

- ・経済発展における制度的要因の役割を明らかにするために、汚職と金融市場の発展の程度が各国の経済成長率にどのような影響を及ぼすのかについて理論的・実証的観点から検証した。
- ・民主化が政府行動に及ぼす影響についての実証分析を行った。
- ・各国の政治制度が健康水準に与える効果に関して実証的な観点から研究を行った。
- ・生産性分布が内生的に導出されるモデルを構築し、貿易自由化が生産性に与える効果について

研究を行った。

- ・環境規制とセットになった自由貿易協定の効果について理論的・数量的に分析した。
- ・教育の果たす役割に注目しながら、経済成長論における収束モデルと技術波及モデルを統合したモデルを構築し、約 140 カ国のデータを用いた推定を行った。
- ・大規模油田が発見された場合に、政府の行動（具体的には政府支出の内訳）がどのように変化するかを世界 100 カ国以上のデータを使用して検証した。

[政策分析]

- ・不完備金融市場下における賃金リスクの存在が景気循環に及ぼす影響を分析し、不確実性ショックは主に低生産性の主体の雇用に影響を与え、総労働時間と平均労働生産性の間に負の相関を生じさせることを明らかにした。
- ・個人固有のリスクに対する市場が非完備の状況では、政府支出が一定の水準を超えると、政府の資産収入のみで政府支出を賄うという無税政策が長期的には実行不可能になるということを理論的に明らかにした。
- ・公債発行の三つの効果、すなわち、利子率の上昇効果、賃金下落効果、リスク低減効果を考慮することによって、日本における最適な政府負債の水準が負であることを明らかにした。
- ・政府の財政破綻確率について異質な期待を持つ個人からなる経済においては、政府の破綻確率の上昇を示唆するニュースに対して、政府負債価格の反応が遅くなることを示すことに成功した。
- ・異質な経済主体からなる非完備市場経済を対象に、資本所得税や消費税が持つ効果を数量的に分析した。
- ・不完備金融市場下において消費税と一括所得移転の組み合わせが、家計所得に対する個別ショックに対する保険としての機能をどの程度持ち得るのかについて数量的に分析を行った。
- ・非完備市場における消費税の効果について、労働供給が divisible なケースと indivisible なケースでは異なることを指摘し、その数量的なインプリケーションについて分析を行った。
- ・名目賃金の改定頻度の異なる複数の均衡が存在するのか、ニューケインジアンモデルを用いて分析を行った。
- ・企業と銀行の長期的な金融関係に債務の大きさが与える影響に関して、特に、銀行の行動の credibility に注目して分析を行った。
- ・労働者の努力が観測できないモラル・ハザードの問題が存在する状況で、労働市場のサーチ均衡を考え、最適な所得再分配政策について分析を行った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計22件（うち査読付論文 22件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Tomoyuki Nakajima, Shuhei Takahashi	4. 巻 52
2. 論文標題 The Effectiveness of Consumption Taxes and Transfers as Insurance Against Idiosyncratic Risk	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Money, Credit and Banking	6. 最初と最後の頁 505 ~ 530
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jmcb.12597	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Akihisa Shibata, Mototsugu Shintani, Takayuki Tsuruga	4. 巻 92
2. 論文標題 Current account dynamics under information rigidity and imperfect capital mobility	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of International Money and Finance	6. 最初と最後の頁 153 ~ 176
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jimonfin.2018.12.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Takao Asano, Hiroyuki Kojima	4. 巻 68
2. 論文標題 Consequentialism and dynamic consistency in updating ambiguous beliefs	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Economic Theory	6. 最初と最後の頁 223-250
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00199-018-1121-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Takuji Arai, Takao Asano, Katsumasa Nishide	4. 巻 85
2. 論文標題 Optimal initial capital induced by the optimized certainty equivalent	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Insurance: Mathematics and Economics	6. 最初と最後の頁 115 ~ 125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.insmatheco.2019.01.006	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takao Asano, Masanori Yokoo	4. 巻 80
2. 論文標題 Chaotic dynamics of a piecewise linear model of credit cycles	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Mathematical Economics	6. 最初と最後の頁 9 ~ 21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jmateco.2018.11.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takuma Kunieda, Kazuo Nishimura, Akihisa Shibata	4. 巻 56
2. 論文標題 Specializations, financial constraints, and income distribution	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 International Review of Economics & Finance	6. 最初と最後の頁 3 ~ 14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.iref.2018.03.012	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takuma Kunieda, Akihisa Shibata	4. 巻 22
2. 論文標題 A Two-Sector Growth Model with Credit Market Imperfections and Production Externalities	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Advances in Mathematical Economics	6. 最初と最後の頁 117 ~ 137
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-981-13-0605-1_5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Atsushi Kajii, Takahiro Watanabe	4. 巻 140
2. 論文標題 Favorite-longshot bias in pari-mutuel betting: An evolutionary explanation	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Economic Behavior & Organization	6. 最初と最後の頁 56 ~ 69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jebo.2017.05.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tomoyuki Nakajima, Shuhei Takahashi	4. 巻 46
2. 論文標題 The optimum quantity of debt for Japan	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of the Japanese and International Economies	6. 最初と最後の頁 17 ~ 26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jjie.2017.08.002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takuma Kunieda, Kazuo Nishimura	4. 巻 8
2. 論文標題 Finance and Economic Growth in a Dynamic Game	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Dynamic Games and Applications	6. 最初と最後の頁 588-600
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s13235-018-0249-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Keisuke Okada	4. 巻 42
2. 論文標題 Health and political regimes: Evidence from quantile regression	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Economic Systems	6. 最初と最後の頁 307 ~ 319
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ecosys.2017.06.003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Anton Braun R., Tomoyuki Nakajima	4. 巻 29
2. 論文標題 Why prices don't respond sooner to a prospective sovereign debt crisis	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Review of Economic Dynamics	6. 最初と最後の頁 235 ~ 255
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.red.2018.01.005	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Takuma Kunieda, Akihisa Shibata	4. 巻 82
2. 論文標題 Asset Bubbles, Economic Growth, and a Self-fulfilling Financial Crisis	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Journal of Monetary Economics	6. 最初と最後の頁 70-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jmoneco.2016.07.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Go Kotera, Keisuke Okada	4. 巻 137
2. 論文標題 How Does Democratization Affect the Composition of Government Expenditure?	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Economic Behavior & Organization	6. 最初と最後の頁 145-159
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jebo.2017.03.004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Keisuke Okada, Samreth Sovannroeun	4. 巻 24
2. 論文標題 Corruption and natural resource rents: evidence from quantile regression	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Applied Economics Letters	6. 最初と最後の頁 1490 ~ 1493
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/13504851.2017.1287849	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takuma Kunieda, Kazuo Nishimura	4. 巻 6
2. 論文標題 Consumption Externalities and Indeterminacy in a Continuous-Time Two-Sector Growth Model	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 International Journal of Dynamical Systems and Differential Equations	6. 最初と最後の頁 385-369
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1504/IJDSDE.2016.081821	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shuhei Takahashi	4. 巻 -
2. 論文標題 Time-varying wage risk, incomplete markets, and business cycles	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Review of Economic Dynamics	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.red.2019.11.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takao Asano, Yusuke Osaki	4. 巻 284
2. 論文標題 Portfolio Allocation Problems between Risky and Ambiguous Assets	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Annals of Operations Research	6. 最初と最後の頁 63-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10479-019-03206-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Atsushi Kajii, Stephen Morris	4. 巻 71
2. 論文標題 Notes on "refinements and higher order beliefs"	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Japanese Economic Review	6. 最初と最後の頁 35-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s42973-019-00006-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Takuma Kunieda, Kazuo Nishimura	4. 巻 -
2. 論文標題 Does Financial Development Amplify Sunspot Fluctuations?	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Pure and Applied Functional Analysis	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takuma Kunieda, Kazuo Nishimura	4. 巻 15
2. 論文標題 Endogenous business cycles in a perpetual youth model with financial market imperfections	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Journal of Economic Theory	6. 最初と最後の頁 231 ~ 248
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ijet.12233	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shuhei Takahashi	4. 巻 -
2. 論文標題 A Note on the Uniqueness of Steady-State Equilibrium under State-Dependent Wage Setting	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Macroeconomic Dynamics	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計13件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 10件)

1. 発表者名 Tomoyuki Nakajima
2. 発表標題 A theory of non-performing loans and debt restructuring
3. 学会等名 18th Annual SAET Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shuhei Takahashi
2. 発表標題 Does State-Dependent Wage Setting Generate Multiple Equilibria?
3. 学会等名 European Meeting of the Econometric Society (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shuhei Takahashi
2. 発表標題 Does State-Dependent Wage Setting Generate Multiple Equilibria?
3. 学会等名 Australasian Meeting of the Econometric Society (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shuhei Takahashi
2. 発表標題 Does State-Dependent Wage Setting Generate Multiple Equilibria?
3. 学会等名 China Meeting of the Econometric Society
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shuhei Takahashi
2. 発表標題 The Optimum Quantity of Debt for Japan
3. 学会等名 2017 Asian Meeting of the Econometric Society (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shuhei Takahashi
2. 発表標題 The Impact of Taxes and Transfers on Skill Premium
3. 学会等名 International (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Takao Asano
2. 発表標題 Conditional Comonotonicity, Consequentialism, and Dynamic Consistency in Updating Ambiguous Beliefs
3. 学会等名 China Meeting of Econometric Society (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Shuhei Takahashi
2. 発表標題 The Effectiveness of Consumption Taxes and Transfers as Insurance
3. 学会等名 Midwest Macro Meetings Spring 2016 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Shuhei Takahashi
2. 発表標題 The Effectiveness of Consumption Taxes and Transfers as Insurance
3. 学会等名 2016 Taipei International Conference on Growth, Trade and Dynamics (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Ryoji Hiraguchi
2. 発表標題 On a solution path to the optimal growth model
3. 学会等名 The 22nd International Conference on Difference Equations and Applications (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 平口良司
2. 発表標題 Temptation and Self-control in a Monetary Economy
3. 学会等名 日本経済学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Atsushi Kajii
2. 発表標題 Decentralizability of efficient allocations with heterogeneous forecasts
3. 学会等名 Asian Meeting of the Econometric Society (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡田啓介
2. 発表標題 Oil Bonanza and the Composition of Government Expenditure
3. 学会等名 琉球大学コンファレンス：マクロ経済動学の理論・実証分析
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	浅野 貴央 (Asano Takao) (40423157)	岡山大学・社会文化科学研究科・教授 (15301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中嶋 智之 (Nakajima Tomoyuki) (50362405)	東京大学・大学院経済学研究科（経済学部）・教授 (12601)	
研究分担者	國枝 卓真 (Kunieda Takuma) (60511516)	関西学院大学・経済学部・准教授 (34504)	
研究分担者	高橋 修平 (Takahashi Shuhei) (60645406)	京都大学・経済研究所・准教授 (14301)	
研究分担者	岡田 啓介 (Okada Keisuke) (70633064)	関西大学・経済学部・准教授 (34416)	
研究分担者	梶井 厚志 (Kajii Atsushi) (80282325)	関西学院大学・経済学部・教授 (34504)	
研究分担者	平口 良司 (Hiraguchi Ryoji) (90520859)	明治大学・政治経済学部・専任教授 (32682)	